【給食協会賞】私にとっての給食の時間

安城北部小学校　鳥居　茉央

私は、岡崎市の小学校から安城市の小学校に転校した転校生です。初めて今の学校に来た時「この学校で楽しく過ごせるのかな」と、不安でいっぱいでした。そして、慣れない環境でなかなか友達もできずにあせっていたある日、今の学校で初めての給食が始まりました。幸い「給食当番」にはならずに済みました。でも「配り」という係になってしまいました。前の学校と色々とやり方が違って何もわからず、さらに、給食を配らないとみんなに迷惑をかけてしまうとあせっていました。私は思いきって、クラスの女の子に声をかけました。

「配り方教えてほしいんだけど。」

すると、まだ仲良くなってもいない私にていねいに配り方を教えてくれました。それから、その女の子が

「友達になろう。」

と声をかけてくれました。私はうれしくなって、

「なろう。ありがとう。」

と答えました。その女の子とは今でも仲良しです。

給食の準備が終わって、みんなで「いただきます」をした後、みんなが周りの子達としゃべっている中、私一人なかなかしゃべれませんでした。そんな中、周りの子が話しかけてくれました。私は転校してから今の学校になかなかなじめずにいたけれど、給食をきっかけにクラスの子達と話せるようになって、給食の時間に私はとても救われました。

前の岡崎市の学校と今の安城市の学校の給食にはいくつか違いがあり、まずは量です。前の学校では、給食の量が多く、給食の時間内に食べ切ることができることが少なかったけれど、今の学校の給食は、ちょうどいい量で時間内に食べ切ることができます。また、岡崎の給食は給食費がかかったけれど、安城の給食は給食費がかからないので、お母さんが「助かるわ。」とよく言っています。それから、私は給食の焼き魚が苦手でしたが、安城に来てからもう一回チャレンジしてみたら、骨がやわらかくて、おいしかったので食べられるようになりました。

私は、給食の時間にとても感謝しています。苦手なものが食べられるようになったことはもちろんですが、私の学校生活の中で私をたくさん支えてくれた時間です。これからの学校生活の中でも給食の時間を大切にしたいと思います。